

「健康都市づくりワーキンググループ」第4回会議 議事録

- 1 開催日時 平成26年9月30日(火) 13:30～15:30
- 2 開催場所 議事堂議員全員協議会室
- 3 出席者 委員：渡邊健、白石秀子、岡崎美季、松木建二、三木博喜  
丹下笑子、村上明良、三並保、加藤彪、米今美智恵、大山由美  
小原妙子、渡邊照子 以上 13名  
(田中清宜、近藤崇史、筒井ひとみ、佐々木利美 欠席)

オブザーバー：高木寛之助、秦榮子 以上2名

新居浜市：福祉部 岡部福祉部長、多田羅総括次長兼健康長寿戦略監  
小野次長兼国保課長、伊達地域福祉課長  
藤田介護福祉課長、高橋地域包括支援センター所長  
河野保健センター所長、安藤地域福祉課副課長  
横山地域福祉課係長、藤田国保課係長  
藤田介護福祉課副課長、佐々木地域包括支援センター係長  
近藤保健センター副所長、横山保健センター係長  
越智保健センター保健師

教育委員会事務局 横井次長兼スポーツ文化課長、守谷スポーツ文化課係長  
以上 17名

4 傍聴人数 1名

5 議事録

渡邊座長

お待たせいたしました。定刻がまいりましたので、ただいまから「健康都市づくりワーキンググループ」の第4回会議を開催いたします。

委員の皆様には、本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

わたくしは、社会福祉協議会の渡邊でございます。

本年4月に開催されました新居浜市政策懇談会におきまして、本ワーキンググループの座長にご指名いただきましたが、本ワーキンググループの会議にはこれまで出席がかなわず、委員をはじめ関係の皆様にご心配、ご迷惑をおかけいたしましたことを心からお詫び申し上げます。

おかげさまで病状も回復いたしましたので、これからは、精一杯座長の職責を全うしてまいりたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、お手元の次第に従いまして、議事を進めてまいります。

はじめに、1の「高齢者の生きがいづくりと介護予防の充実」についてでございます。

前回、事務局から、このことについて、現状と課題の説明があったと伺っておりますので、本日は、委員の皆様のご意見を伺ってまいりたいと思います。

事務局から5つの課題について、説明があったと思いますが、まず、1つ目の「高齢者の介護予防の拠点づくり」についてでございますが、送迎に頼らない、身近な地域での集いの場づくりが必要ということでございますので、

こうした視点にたって、皆様のご意見を伺いたいと思います。

これら課題の解決策をはじめ、新たな取り組みについてのご提言など、なんでも結構でございますので、よろしく願いいたします。

どなたからでも結構ですので、意見のある方は挙手をお願いいたします。

岡部部長

高齢者の介護予防の拠点づくりについて、身近な地域ということで資料に自治会館の表を載せております。市内には185の自治会館があり、例えば新居浜校区では高齢者人口1,477人で自治会館が8か所あり、自治会館あたりの高齢者人口は185人ということです。地域でこういった場の活用や、地域コミュニティーの再生という意味でも介護予防事業を身近な拠点でという思いがあります。このようなことからご意見いただけたらありがたい。

三並委員

自治会館を拠点にしたサロン等を実施することはありがたい。地域でも高齢者の方に活用していただきたいと言っているが、なかなかリーダーになる方が少なく、活用できていないのが現状。

校区全体としては、老人クラブの方で会をしたり、公民館で活動したりなどもしていますが、それを一自治会に広げるのは難しい。周知の仕方が悪いのかもしれないが、何とか広報していきたい気持ちはある。

加藤委員

単位自治会や公民館での生きがいづくり、介護予防は程度の差こそあ

れ、実施しているとは思いますが、特定の人だけになっている。町内、校区を挙げてという動きにはつながっていない。趣味の延長、自分のためだけの活動になっている。生きがい創造学園があるが、そういうところで目指しているのは、学んだことを地域に持ち帰って広め、リーダーになることだと思う。

こうして人の輪を広げ、出てくる人を特定の人でなく、多くの人に声をかけ興味関心を持ってもらうようなことへもつながると、それが介護予防になる。

来年の8月から介護サービスの自己負担が2割になる。そうなったときに、介護の世話にならないように、健康で長生きできるように、生きがいづくりや、サロンなどの活動ができればよいと思う。

岡部部長

介護保険サービス自己負担が2割になるという話は、全部ではない。事務局で説明を。

藤田課長

自己負担が見直されることについては来年の8月に決まっている。全ての人ではなく、単身で年金収入が280万円以上の方です。ある一定の収入の方までは今まで通りです。介護保険制度の中で所得の多い方には負担を多くしていただき、収入の少ない方には負担を軽減しようとするものです。

大山委員

社会福祉協議会では、歩いて行ける身近な地域で、介護予防や血圧測定、話合などを行うふれあいきいきサロンを広げようとしている。ある程度広がってはいるが、リーダーが少ないという問題がある。地域のボランティアが中心となって活動をしているがボランティアが少ない。金栄支部などは活発ですので、参考にさせていただきたい。

また、高齢者福祉センターが市内3か所あり、社会福祉協議会が指定管理で運営しているが、福祉バスの巡回もあるので、もう少しアピールしながら拠点の一つとして活用していただければと思う。

加藤委員

金栄のボランティアの会は立ち上げてから年数が経っており、現在51名が登録されている。地域の施設やイベント等に出て行って活動している。

全員がいつも出るということではなく、代り合って連絡を取り合いながら活発に活動している。社協金栄支部としても支援している。

三木委員

老人会では世話する人がなかなかいないということが全国的な問題。

若手委員会というのを作り活動しているが、これも75歳以下がなかなかいない。後継者づくりと会員増強に取り組んでいるが難しい現状。どういう風にしたら活発に動けるようになるのか。

高齢者生きがい創造学園を卒業したらリーダーになるような指導もしているのだと思うが、自分もグランドゴルフを学び、地域で、今30人くらいでやっている。しかし、30人いても次に世話してくれる人がいない。リーダーを養成することを考えないといけない。

老人会も会長になる人を何らかの形で考えないと、つぶれる。新居浜校区、惣開校区も世話する人がいなくてつぶれた。他の市町村でも世話人がいなくて解散している。解散すると行事がなくなり健康づくりなどの取り組みが難しくなる。指導者さえおれば会員はできる。

秦オブザーバー

保健センターにおいては食育アドバイザーの講習を行い、昨日15名が終了した。これから地域で活動するが、どこで活動するかを申し出てもらい、今後どうするかという話合もした。人材育成としてこういった未来のある話もある。

渡邊座長

それではすでに2つ目の課題の方に移っているようですので、「高齢者が取り組みやすい介護予防の普及とリーダーの育成」についてでございますが、高齢者が取り組みやすい魅力ある介護予防プログラムやこれを普及させるリーダーをどのように育成するかについて、ご意見を伺いたいと思います。

秦オブザーバー

みなさん考えているとは思いますがやるしかないと思う。趣味の会では喜んで参加しているので、それを利用したところで地域のためにそんなことをしましょうという話をするなど、目標を決めてしないと時間が立ってしまう。リーダーが高齢で、その人がやめると会がお終わってしまうので真剣に考えてほしい。

岡部部長

今回の会は財政的な支援もしていく前提で開いている会ですので、事業としていやっていただける仕組みを作らなければいけない。

単体の団体での実施が難しいのであれば、色んな関係団体が協働した事業を自治会館を拠点にして実施するといった事業も考えていけば、身近なところで参加しやすい事業が展開できるのではないか。

例えば、いきいきサロンを活発な形に変えて、新居浜市の仕組みの中で実施する中でリーダーもでてくれば、リーダー育成事業も展開できる。前向きにご協力いただけるとありがたい

渡邊座長

すでに3つ目の課題であります「既存のボランティア団体等の活用と新規発掘・育成」についてにもはいつているようですので、合わせて意見を  
お願いしたいと思います。

既存のボランティア団体への働きかけや支援、サロンや自主グループの  
把握、また、シルバー人材センターとの協働など何点か示されております  
が、このことについて、ご意見を伺いたいと思います。

秦オブザー  
バー

先日、自分の家の納屋を改造して、ご近所の人が寄って食べて遊んで生  
きがいを感じさせるようにしたいと思っているという人がおり、感動し  
た。自分も今度家を建てる時は人が集まるようにしたいと思った。

そういう発想をしたときに行政がしっかり助太刀してくれるといいと  
思った。

白石委員

現状ではリーダーを作ることはなかなかできないので、校区や、自治会  
館を単位に、例えば防災安全課や、消防署を抱き込んで、地域で防災のた  
めにやれることや、実演やスライドを使った話があれば、高齢者だけでな  
く、定年退職後の人なども対象に、人をたくさん集めることも大事なの  
ではないかと思う。それを順々に広めるといいのではないか。

岡部部長

秦会長の話にもありましたが、気軽にきてもらうとなると不足する備品  
があったり、改造が必要なこともあろうかと思う。市としてできるかどう  
かという検討も必要だが、そういうことも支援しながら拠点に来やすいよ  
うにしたり、居場所としてだけでも環境を整えようということでもこの会  
の中で出していいただければ、行政は検討していきたい。

渡邊委員

大生院の自治会でも老人クラブが支部を作っている。春は花見、秋は芋  
炊きをして、普段出て来れない人も誘い合って、話しにおいで、食べにお  
いでと呼び込んでいる。

そういう時に自治会の道具では間に合わない時には支援してほしい。  
そういった中で味噌汁の塩分濃度の話なども普及していけると良い。

米今委員

シルバー人材センターでは福祉の受け手から社会の担い手へをモット  
ーに活動している。

元気な高齢者がいかに支援の手が届かない人の手助けができるか、を模  
索している。純然たるボランティア団体ではないが、半分ボランティア精  
神のもとにやるよう指導しており、いかに行政と協働していけるか、介護

予防に役立てていけるようにするか模索しているのでみなさんと協議していきたい。

渡邊座長

次に、4つ目の課題であります「介護保険制度の適正利用の周知啓発」についてと5つ目の課題であります「地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み」についてでございますが、これについては、行政が今後取り組んでいくうえでの課題ではないかと思っておりますので、特にご意見やご質問があれば伺いたいと思っております。いかがでしょうか。

(意見なし)

渡邊座長

それではここで、オブザーバーのお二人からご意見、ご感想があればお願いいたします。

高木オブザーバー

介護予防の拠点づくりについては、使える場所があることが大切。自治会館の活用は画期的なことなので、ぜひ残してほしい。

ハード面がはよくてもソフト面を中心にやる人がいない、中心にやる人を支援する人がいないという点ですが、「高齢者の実情」を見ても70歳くらいではもうボランティアの参加率が低い、あいさつしない、支え合いを重視していない、とうことで、いかに支え合いに興味のない人を巻き込むかということになると退職前から地域へソフトランニングできるよう、企業との連携や学習の機会をつくることが大事。

既存のボランティアの活用も大事で、地域包括だけではなく支え手として社会福祉法人をどう使っていくか。これからは事業所も地域貢献を考え、施設で待っているのではなく出ていく時代になる。こういったところとどう協働していくかが大事。

ただし、囲い込みにならないように仕組み作りが必要。専門性があつたほうが人が集まるので上手に使うとよい。この辺を整理しながら考えていくとよい。

秦オブザーバー

自由に楽しさをもって地域で支え合っていく意識をいかにみんなで育てていくかということが大事。「高齢になったから引いてください」という意見を言うところでは、どんな年齢でもそれなりに、できる人をいかに使っていくかというリーダーシップが大事で、そのような風潮を打開していくのもひとつでなかろうかと思う。

出て来れる人を支援しているが、ボランティアが訪ねて行って支えるボランティア、優しさのある支え合う心を行政が育ててほしい。マイペースな人、自分さえよい人多すぎる。

また、ボランティアの中には一生懸命高齢者のために頑張っている人も

いるので、そういう人の意見も聞いてほしい。

渡邊座長

ありがとうございました。

次に、2の生涯スポーツの推進について、ご協議をいただきたいと思えます。

はじめに、現在の取り組み状況と課題について、事務局から説明があります。

事務局（スポーツ文化課・守谷係長）

1 スポーツ推進計画に基づく各施策実施状況（平成26年度スポーツ文化課関連）

・基本目標1生涯スポーツの推進、2身近な運動・スポーツ機会の創出が本WGに最も関連している。市民歩け歩け大会、地域スポーツ育成事業（校区体育振興会が実施）等を重点的に説明。

2 現在の取組について

・地域スポーツ育成事業…高齢者をターゲットにしたメニューを設定し実施している。その他、新居浜市文化体育振興事業団が実施する各大会等の説明。

3 新居浜市スポーツ推進計画

・新居浜市スポーツ推進計画…スポーツ機会の提供、市の関係機関で実施する同様の事業の連携、全国大会出場選手等への支援を説明。

4 グラウンドゴルフ

・1回目の会から出ましたグラウンドゴルフの新居浜市の概要説明。最も競技人口が多く、会員数、活動内容の説明。

・市が主催する協会員以外の大会へも参加者が多い。

・競技の中で8ホールのうち3回ホールインワンすれば日本協会からダイヤモンド賞が授与される。これらも生きがいになっていると思われる。

5 グラウンドゴルフに関連した問題点について

・市はきっかけづくりは行えるが、引き続き取り組むかは個人任せになる。道具の整備などとしてはいるが、その後自分でするには、高価な道具の購入など障害もある。

6 課題

・きっかけづくりの中でも校区の体育振興会が実施する事業についても、参加者の確保には校区老人会に依存しているため、新たに参加者を掘り起こしが弱いところである。

・市の関係課所でも同じような事業の整理など大会規模を大きくすればそれなりの効果もあるかもしれないが、幅広く市民の参加が得られる取組が必要である。

・施設の整備については、市が主体的に取る組むべき分野である。

渡邊座長

ありがとうございました。

ただ今、事務局から説明がありましたが、ご質問がありましたらお受けしたいと思います。

ご質問はございませんか？

ないようでしたら、委員の皆様のご意見を伺ってまいりたいと思います。

ただ今事務局から課題についての説明がありましたが、このうち、特に、①のスポーツを全くしない人への啓発、きっかけづくり、②の引き続きスポーツに取り組める仕組みづくりについて、重点的にご意見をいただきたいと思います。

これら課題の解決策をはじめ、新たな取り組みについてのご提言など、なんでも結構でございますので、よろしく願いいたします。

意見のある方は挙手をお願いいたします。

丹下委員

○課題について（意見）

①スポーツを全くしない人への啓発きっかけづくり

②引き続きスポーツに取り組める仕組みづくり

・新居浜市スポーツ推進委員協議会の概要説明

渡邊座長

ありがとうございました。

ただ今、丹下委員からスポーツ推進協議会の活動状況について、お話をいただきましたが、こうした活動に高齢者がもっと参加できるような取り組みができればと思いますが、この点についても、ご意見があればお願いいたします。

岡崎委員

校区の取組説明。同じ人が参加、新しい人の掘り起こしもしているが、比較的若い人は仕事をしているなど、忙しく参加いただけない。逆に入りづらい雰囲気があるように感じている。

渡邊委員

健康診査の結果がきっかけでウォーキングをしている。それぞれの人が色んなきっかけで、まずは歩くことから始めて、市の大会へ参加するのもいいと思う。

小原委員

PTA 連合会ソフトバレー大会を開催した。スポーツの方はやる人とならない人がはっきりしている。チームによっては練習して楽しく取り組んでいるチー



ムもあって、リーグ戦などもしている事例もある。こういった経験が生涯スポーツに繋がっていけば良いと思う。

三並委員

啓発方法が課題になっているが、参加者の固定化は別に良いと思う。参加している人は楽しく参加していると思うし、無理に参加させる必要はないと思う。今の公民館報やロコミでも良いのではないだろうか。

加藤委員

体を動かす人が得意な人、座学が得意な人、色んな人がいると思う。不得意な人に無理矢理させることは、本人のプレッシャーにもなる。高齢者のレクリエーションスポーツで健康を維持するための方法を考えていくべきだが、その為には適切な指導者が必要である。きっかけと指導者と場所が必要だ。

村上委員

ウォーキングは誰でもできる、体力的にも負担にはならない。市の大会は年に1回の実施であると思うが、春と秋に実施するなど回数を増やせば市民の方も参加しやすくなるのでは無いでしょうか。

三木委員

老人クラブでは食生活の改善、塩分控えめの食事をしようを健康維持のために取り組んでいる。来年度からは地域へも広めていく活動を計画している。ウォーキングについては、お金もかからず誰でもどこでも行動できる。個人的にグループを作って1時間歩いて、その後食事をして談話していることが喜ばれており、生きがい広がっていることもあり、市の関係課で実施しているものの回数を増やして広めていただければと思う。新しいスポーツで2本の杖で歩くウォーキングが流行っている。女性が好んでおり、その理由は服装が楽しまれている。新居浜でも流行するよう取り組んでいけたらいいと思う。

渡邊座長

ありがとうございました。

ここで、オブザーバーのお二人からご意見、ご感想があればお願いいたします。

秦オブザーバー

大会や教室などの競技とするスポーツと一人一人が元気で長生きをするためのスポーツとある。それは誰でもどこでも好きなときにできるウォーキングを目的を持ってすることが大切である。食生活改善推進協議会では30年前から歩くことの大切さを、みんなと学びながら実践していますが、これらの内容を市でPRしていただければいいと思う。歩けなくなったときのストレッチ体操の強化することを市、市民挙げて取り組んでいただきたい。

高木オブザーバー

歩くことがピックアップされているが、歩くと膝が痛くなる。歩くことが苦になっているそういった方への情報提供ができているのか？運動しない人に対してどうするか、日常生活の動作の中で筋力アップを図るための情報提供を地域スポーツ育成事業の中で取り組んでいただきたい。きっかけづくりとしては、健康に関する機関から、その人にあった運動について、ある程度の指針が提供できれば、きっかけづくりには効果的ではないか。病院などと連携して、新居浜市ではこんなものがあるといった踏み込んだ情報提供できれば良いと思う。

渡邊座長

ありがとうございました。

次に、議題3の先進地視察について事務局から報告があります。

多田羅戦略監

資料3をご覧ください。本ワーキンググループの先進地視察でございますが、前回の会議で視察先を決定していただきましたが、日程交渉の中で、一部視察先に変更が生じたので、ご報告いたしますのと、委員を含めた視察メンバーが決定いたしましたので、合わせてご報告いたしたいと思えます。

まず、1班でございますが、視察先は、福井県小浜市と兵庫県豊岡市の2市でございます。当初は豊岡市ではなく朝来市を予定しておりましたが、日程の調整ができなかったことと、朝来市の健康づくりポイント事業は豊岡市の先進事例をモデルにしたとお聞きしましたので、豊岡市に変更いたしております。視察に行かれますのは、委員お二人と事務局2人の4人でございますが、委員は、三木委員と米今委員のお二人でございます。事務局は、介護福祉課の藤田副課長と保健センターの近藤副所長の2人でございます。

視察日程は、2泊3日で、10月8日（月）～10日（水）の予定でございます。

次に、2班でございますが、視察先は、長崎県佐々町でございます。視察に行かれますのは、委員お一人と事務局2人でございますが、委員は大山委員でございます。事務局は、地域包括支援センターの佐々木係長と地域福祉課の横山係長の2人でございます。

視察日程につきましては、全国から視察が殺到しており、10月は対応できないということで、交渉の結果、11月19日（水）～21日（金）となっております。

このため、ワーキンググループといたしましては、当面は、視察以外で得られる情報によって提言等の準備を進めてまいります。

次に、3班でございますが、視察先は広島県呉市でございます。視察には、事務局から2人がまいります。国保課の藤田係長と保健センターの横山係長でございます。

視察日程は、10月14日（火）を予定しております。

なお、視察結果については、第5回の会議で委員の皆様にご報告したいと考えております。以上でございます。

渡邊座長

ただ今の事務局の説明に対してご質問はありませんか？  
(質疑なし)

渡邊座長

視察に行かれる皆様には、お忙しい中たいへんだと思いますが、よろしくお願いいいたします。

お気をつけて行っていただきたいと思います。

それでは、最後に、その他といたしまして、次回の日程をご協議いたします。  
事務局から説明をお願いいたします。

多田羅戦略  
監

次回、第5回会議は、10月中旬を予定いたしておりましたが、先進地視察のご報告や太鼓祭りがございますので、10月下旬に開催させていただきたいと考えております。また、20日(月)の週には、議会の決算特別委員会がございまして、10月27日(月)～31日(金)の週で調整させていただきたいと思っております。

開催時刻につきましては、本日は、会場の都合で午前になりましたが、次回は午後1時30分の予定でございます。以上 よろしくお願いいいたします。

それでは、皆様のご都合をお伺いいたします。

10月27日(月)から31日(金)までの間で、ご都合の悪い日がありましたら、おっしゃってください。

(順番に各委員の都合を聴取)

渡邊座長

日程につきましては、事務局で調整させていただき、改めてご案内の通知を差し上げますので、よろしくお願いいいたします。

本日は、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

それでは、以上で「健康都市づくりワーキンググループ」第4回会議を終了いたします。

委員の皆様には、今後ともご協力をよろしくお願いいいたします。

本日は、大変お疲れ様でした。